

定例教育委員会会議録

(令和7年11月7日開催)

岡谷市教育委員会

定例教育委員会【議事録】（要点筆記）

日 時 令和7年11月7日（金）10時10分～

場 所 市役所6階 605会議室

署名委員 小平教育委員、藤森教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 岡谷市学校部活動地域クラブ移行推進計画（案）について【資料No.1】（教育総務課）

2. いじめ・不登校の状況について（上半期）【資料No.2】（教育総務課）

○ 報 告

1. 滋賀国スポ・全障スポ2025視察について【資料No.3】（国スポ・全障スポ推進室）

○ そ の 他

・行事等について（各課）

・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、
教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

事務局（説明員）

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課長 荻原 浩樹、
教育総務課主幹指導主事 村松 晋

生涯学習課長 三澤 達也、スポーツ振興課長 味澤 勝一、

指導主事（ウェルビーイング実践校）井出 誠一、子ども教育相談センター長 林 秀昭、

教育総務課 教育企画主幹 西山 壘、学校教育主幹 新村 尚志、

子ども教育相談センター主幹 長谷川 智康、

国スポ・全障スポ推進室 国スポ・全障スポ推進主幹 井岡 雅彦、

教育総務課 主事 渡辺 凱

<会議録>

○開 会

宮坂教育長

11月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は、小平教育委員、藤森教育委員をお願いします。

○教育長報告

宮坂教育長

明日は二十四節気の立冬、木枯らしが吹き始める時期となり、本格的に寒さを感じる頃になる。

(1) 子どもたちの姿から

① 岡谷田中小学校 10周年

唐澤史比古氏による講演と校歌の合唱が行われ、制作時の裏話も紹介された。子どもたちから「もう一度歌いたい」という声上がり、校歌への強い愛着が感じられた。岡谷田中小の児童は校歌を大変気に入っている様子。

② 音楽会

本年度は北部中、小井川小、南部中、東部中を含む4校の音楽会を参観できた。北部中では生徒主体の曲紹介と男子生徒の力強い合唱が印象的であり、小井川小ではのびのびとした歌声に心が開かれる思いがした。南部中の3年生の学年合唱も別れを前にした素晴らしい演奏であった。岡谷市の小中学校は音楽による学校づくりを重視しており、今後も音楽を愛し、歌を身近にする子どもたちが育つことを望む。

③ 6学年交歓音楽会

市内6学年の交歓音楽会について、またどこかで感想をいただきたい。発表を見て自身の教員時代に指揮をしていた頃を思い出した。頭声発声と胸声発声を組み合わせて指導していた経験と重なり、子どもたちの美しい響きと力強さを併せ持つ歌声、さらに湊小のリコーダー合奏が非常に素晴らしいと感じた。

④ 教頭会

10月20日に岡谷南部中で教頭会が行われ、社会科や英語の授業では生徒と教師の良好な関係や温かな言葉がけが印象的であった。校内掲示も充実しており、2年生のロッカーには3年生を手本として来年度の自分を思い描く内容が掲示されていた。

(2) 職員の様子から

10月8日に諏訪地域の学校と授業を考える会が、6市町村14校で実施された。川岸小では、県道徳学会諏訪大会としても行われた。他、市内4校でも実施され、先生方の学びの一日となった。

(3) 生涯学習課から

① 子ども・若者育成支援のための街頭啓発

子ども・若者育成支援強調月間の一環として街頭啓発を行い、寒い朝の中、関係機関や岡谷南部中・南高校の生徒会とともに挨拶と啓発物品の配布を実施した。教育委員の参加に感謝するとともに、今後も啓発活動を通じて子どもの安全確保と健全育成に努めていく。

② 令和7年度岡谷市民文化祭

10月24～26日に市民文化祭作品展が開催され、38グループによる多彩で個性豊かな作品が並び、ワークショップも盛況であった。11月3日の市民音楽祭では27団体が多様な音楽を披露し来場者を魅了した。今後も岡谷展、市民舞踊祭、芸能フェスティバル、演劇祭が予定されており、舞踊祭では市川笑野氏らの特別出演や小井川小4年生のソーラン節の発表も行われる予定である。

③ 岡谷ロータリークラブ様からの寄贈

10月25日、岡谷ロータリークラブから図書館へ展示パネルや書架、プロジェクターの寄贈が行われた。寄贈品は中高生向けに進路や就職に関する情報提供に活用される。また贈呈式後には、栗木勇氏による「バレーボールとともに」と題した講演会も実施された。

(4) スポーツ振興課から

① やまびこ国際スケートセンター屋外リンクの営業開始

やまびこ国際スケートセンター屋外リンクは、今シーズン11月22日から翌年2月15日まで営業する。指定管理者が安全で滑りやすい氷づくりに着手し、オープニングセレモニーでは市長による滑り初めや初心者向け教室が行われ、当日は終日無料で滑走できる。今シーズンもスケートの普及と競技力向上に取り組む。

② VC長野トライデンツ

VC長野トライデンツは市と連携協定を締結し、10月25・26日のSVリーグ開幕戦で日本製鉄堺ブレイザーズに両日3-1で勝利し好調なスタートを切った。11月1、2日のウルフドッグス名古屋戦では連敗したものの、ルーキー選手が活躍し強豪に迫る手応えを得た。昨季9位からの巻き返して、今季はプレーオフ進出を目標としており、今後の活躍が期待される。

○議 題

1. 岡谷市学校部活動地域クラブ移行推進計画（案）について

＜岡谷市学校部活動地域クラブ移行推進計画(案)について、事務局よりNo.1に基づき説明＞

太田教育長職
務代理者

部活動の地域移行計画は、生徒が現在参加する部活動を地域クラブで運営する形に移行するものである。教育的意義を継承しつつ、家庭や学校、指導員への過度な負担を避けながら、段階的かつ着実に進めることが重要である。その際、全体のコミュニケーションや調整を岡谷市・教育委員会がバックアップする体制を整えることが不可欠である。

藤森教育委員

地域クラブへの部活動移行では、専門的な指導者による活動の充実が期待される一方で、教育的意義の継承が重要である。そのため、地域クラブ指導者向けの共通研修などの実施が検討されるべきであるが、そういった研修会などの実施予定はあるのか。また、休日に活動する指導者への負担軽減として、団体単位での補助や助成など費用面の支援が必要であるが、そのような補助などはあるのか確認したい。

事務局（西山）

教育的意義の継承については、現行の部活動指導員向け県研修に地域クラブ指導者も参加可能であり、周知を通じて研修参加を促す方針である。財政支援については、国の改革推進期間中の補助を活用し、クラブ運営費に充て

- 藤森教育委員 ことで家庭負担を抑える仕組みとなっている。
- 小平教育委員 学校での教育活動としての部活動を地域クラブに移行する流れは社会的にも意義があるものであり、体制整備に期待している。一方で、部活動本来の教育的意義を指導者に理解させスキル向上を図ることや、クラブへの経済的負担など現実的課題にも配慮しつつ進めることが重要である。
- 事務局（参事） 資料2ページの左下の文化部活動の美術・創作の枠が2つあるが、これは別のものなのか、同じものなのか。
- 小平教育委員 美術部という部活のほかに、創作部という美術的な活動をするということにとらわれずに創作を大事にする部活があるため、併記している。
- 事務局（西山） 3年かけて準備が進められ、軟式野球部が稼働できていることは素晴らしいことである。その経過について確認したい。また、文化活動、とりわけ美術創作についてはまだ具体的な見通しが立っておらず、部活動アンケートでは希望者も多いことから、今後の展開が注目される。軟式野球部のスタートの形態も含め、今後の進展を教えてください。
- 小平教育委員 軟式野球部は令和6年6月に設立されたもので、元々小学校で軟式野球をしていた保護者たちが中学校での部活動存続を危惧し、主体となって作り上げたチームである。休日に活動を開始し、中体連の大会にも参加している。北部中学校の校庭で活動し、学校と密に連絡を取りながら教育的配慮に留意して活動を行っている。
- 事務局（西山） 美術活動についてはまだ整備段階であるが、美術考古館の活用などで、今後の展開が検討されている。
- 事務局（西山） 軟式野球部に関しては、保護者の力が大きいですが、現時点で関わっているのは現在お子さんが所属している保護者なのか、あるいは過去にお子さんが所属していた保護者が多いのか。
- 事務局（西山） 現時点で所属しているお子さんの保護者の方である。お話を伺う限りでは、指導者の数も少しずつ増やしていき、10年20年は続けていきたい意向である。
- 事務局（西山） 軟式野球部に関わる指導者や先生方には感謝すべき。彼らが無理なく活動できるよう、謝礼や負担軽減の仕組みを整備することが望ましい。また、経済的支援や移動手段の確保も重要であり、家庭の事情で活動の機会を失う子どもが出ないように配慮する必要がある。もう1点、地域移行検討委員会は、どのようなメンバーであるのか伺いたい。
- 事務局（西山） 地域移行検討委員会には、岡谷市のスポーツ協会会長、スポーツ少年団関係者、PTA、学校の校長などが参加している。委員会では、岡谷市の部活動の現状などについて情報共有を行ってきた。
- 事務局（西山） 美術・創作については、美術考古館の館長が出張で各校の指導・創作活動に関わっており、相談も可能である。指導人材の確保は重要であり、無理のない範囲で人脈を築くことが望ましい。また、岡谷市内の各施設を活用し、指導者が巡回する形での支援も考えられる。
- 事務局（西山） 軟式野球部の稼働日数は週何日を想定しているか。
- 事務局（西山） 現行は休日のため、土日に活動している。
- 事務局（西山） 土日の活動は都合がつきやすい場合もあるが、平日が多いと指導者の確保が難しい。その点を考慮しつつ、今後の運営について検討を進めてもらいたい。
- 林教育委員 かつては想像もできなかった状況になっているが、受け皿を探して調整中の文化系部活動について、受け皿が見つからない場合にどうなるのかが問題である。また、地域クラブへの移行に伴い、野球のように従来は学校対抗で

行われていた練習試合が、諏訪圏域内の複数チーム間で行われる場合の連携状況についても確認したい。

事務局（西山） 受け皿が見つからないことがないよう、教育委員会は精一杯対応する方針である。広域での連携も徐々に進んでおり、例えば下諏訪中学校との中体連参加においても連携を図ることで、子どもたちの活動が途切れないよう配慮している。

林教育委員 現状、指導者は一般に働きながら活動しており、仕事の都合で急に指導できなくなるなど不安定な部分がある。この解消策として、長野県内の大学生や教師を目指す学生を巻き込み、指導者育成の仕組みを行政と大学が連携して構築することが有効である。加えて、活動を進めるにあたり、生徒と保護者には丁寧な説明を行うことが重要である。

轟教育委員 クラブ化が予定されている部活動のうち、協会関係のクラブは既に交渉段階に入っているのか確認したい。

7月以降の4か月間で、新たにクラブ化が進んだものがあるか、段階的な進展の状況を教えていただきたい。

軟式野球部のように保護者の熱意で成り立ったクラブについて、実際に稼働してみて挙がっている問題点や要望があるか確認したい。

活動費用や補助について、これまで補助制度があったのか、現状どのように活用されているのか説明をしていただきたい。

事務局（荻原） 協会関係のクラブについては、まず休日の部活動移行の段階で協力をお願いしている。すでに合同部活動も実施済みであり、令和9年度を目標にクラブ化を進めていく方針である。他の競技団体についても同様に、まず休日の活動から関わってもらい、将来的なクラブ化を目指す形で進めている。

事務局（西山） サッカーについては、まだ情報を得た段階であり、他クラブからの大きな要望はない。ただし、施設利用や雨天時の活動場所などで要望がある。令和5年度後半から地域移行の話が出て、当初は協会側も高齢化や仕事の都合から受け皿を作るのは困難であった。しかし、交渉を重ねる中で子どもたちのために前向きな姿勢を示す協会も現れた。現状のクラブ化予定はあるものの、将来の状況は不透明であるため、協会と丁寧に連携しながら令和9年度を目標にクラブ化を進めていく方針である。

事務局（荻原） 軟式野球については令和6年から活動を開始しており、その活動に対する補助は国から支給される形である。

轟教育委員 先日、長野市での部活動地域移行に伴う試験的な取り組みとして、Smart Lock キーを使った施設利用システムがテレビで紹介されていた。予約システムと連動して暗証番号が送られ、体育館の鍵を借りたり返したりする手間が省ける仕組みである。現状、体育館を借りる際は調整会議への参加や鍵の受け渡しが必要で、手間と負担が大きい。合同部活動などが増える中で、こうしたSmart Lock の導入は利便性向上の有効な手段となる可能性があると考え

藤森教育委員 中学校運動部における教育的意義の一つは、大会で成果を発揮する機会である。中体連主体の競技会が主な大会であり、地域クラブが大会に参加すると、同じ競技で学校設置部活動としての大会参加は認められないというルールがある。令和9年に地域クラブ化が進んだ場合、現存する各学校の部活動がどのように存続・移行していくのか、その方針や計画について確認したい。

事務局（西山） 現在、地域クラブへの移行は休日を対象として進められており、平日は従来通り学校の部活動として行われる。軟式野球の場合、3校に部活動があり、

中体連の大会にはクラブとして参加している。生徒が所属する学校の部活動ではなく、クラブ単位で大会に出場する形となる。

藤森教育委員

全ての生徒に活動の機会を保障することが重要である。中体連のルールも今後変化する可能性があるため、その点についてもまたご配慮いただきたい。

宮坂教育長

岡谷市学校部活動地域クラブ移行推進計画（案）について、教育委員会として承認したいがよろしいか。

各教育委員

— 異議なし —

宮坂教育長

部活動の地域クラブへの移行は、地域の指導者や関係者の協力を得つつ進める必要がある。これにより、学校の働き方改革と教育の質向上も図ることができる。令和8年度末を目途に、関係者の理解を得ながら移行を進める方針である。

2. いじめ・不登校の状況（上半期）について

<いじめ・不登校の状況（上半期）について、事務局より No.2 に基づき説明>

太田教育長 職務代理者

岡谷市におけるいじめの状況報告については、近年は小さな事例も見逃さず対応している結果であり、件数の増減だけで一喜一憂すべきではない。分析では、冷やかし・からかい・悪口が全体の半数以上を占めている。生徒同士が謝罪やコミュニケーションを通じて関係を修復できる方向性が望ましい。その上で、重大ないじめ案件の推移や増減状況についても確認したい。

事務局

岡谷市における重大ないじめ事案は、令和6年度は0件である。

（長谷川）

太田教育長 職務代理者

岡谷市では、子どもや保護者からの相談にきめ細かく対応しており、そのことが重大ないじめ事案が発生しない状況につながっている。不登校については件数が増えているが、社会全体の認識の変化や事情の多様性が背景にあり、一概に問題視すべきではない。岡谷市ではアウトリーチを中心とした個別対応を行い、家庭や子ども一人ひとりの状況に応じて最善の方法を模索しており、今年度も学校に通えるようになった子どもが数名いる。このようなきめ細かい対応を今後も根気強く継続することが重要である。

事務局（林）

これまで中1ギャップとして小学校から中学校への進学時に不登校が増えることが課題であったが、近年は小学校低学年から不登校が見られるようになり、小学校から中学校にかけて連続的に増加する傾向がある。一方、中学2、3年生ではピークがやや落ち着く状況である。このため、小学校段階や幼保段階からの支援がますます重要であると考えられる。

宮坂教育長

いじめや不登校は、どの子どもにも起こり得る重要な課題であり、学校のみならず家庭や地域を含む社会全体で取り組むべきである。子ども一人ひとりに応じた学びや居場所を確保し、自分らしく成長できる環境を整えることが重要である。岡谷の教育全体で、すべての子どもが互いを認め合い希望を持って未来に歩み出せるよう努める。

1. 滋賀国スポ・全障スポ 2025 視察について

<滋賀国スポ・全障スポ 2025 視察について、事務局より No. 3 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

・次回定例教育委員会日程

令和7年12月12日（金）午前9時30分からやまびこ国際スケートセンターを予定

11時50分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 7 年 12 月 12 日

教 育 長 宮坂 享

署 名 委 員 小平 陽子

署 名 委 員 藤森 一俊

調 製 職 員 白上 淳